

第11回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(秋田大会)の報告

1. はじめに

8月9日(木)、10日(金)の2日間、秋田市内の公立大学法人秋田公立美術大学を会場にして、第11回全国高等学校情報教育研究会¹⁾全国大会(秋田大会)が、秋田県高等学校教育研究会情報教育部会の共催で開催された。文部科学省をはじめとして、多数の後援と協賛を受け、初の東北地域での開催となった本大会は、全国からの教員、大学、企業関係者等252名の参加者で活気ある大会となった。

2. 大会概要

【テーマ】「新時代の学びをリードする情報教育
—秋田から全国に向けて—」

【日時】8月9日(木)13:00～10日(金)16:00

【会場】公立大学法人 秋田公立美術大学
(秋田県秋田市)

【主催】全国高等学校情報教育研究会

【共催】秋田県高等学校教育研究会情報教育部会

【後援】文部科学省、秋田県教育委員会 他

【大会 URL】<http://www.zenkojoken.jp/11akita/>

【プログラム】

○8月9日(木)

11:00～ 受付

12:30～ 全国高等学校情報教育研究会総会

13:00～ 開会行事(開会挨拶、来賓祝辞)

13:30～ 基調講演

東北大学大学院 情報科学研究科

教授 堀田 龍也 氏

演題「教育の情報化の動向と今後の展望」

14:30～ ライトニングトーク

15:00～ ポスターセッション・企業展示

18:30～ 教育懇談会

○8月10日(金)

8:30～ 受付

9:00～ 分科会、企業展示

教育実践、研究成果等の発表・意見交換

3会場で各6件(発表20分、質疑5分)

12:30～ 昼休憩、企業展示

13:20～ 分科会

3会場で各2件(発表20分、質疑5分)

14:30～ 講評・講演

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

教育課程調査官

文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課

情報教育振興室

文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課

産業教育振興室

教科調査官 鹿野 利春 氏

15:30～ 閉会行事

3. 大会の様子

(1) 基調講演

東北大学大学院情報科学研究科の堀田龍也教授から、「教育の情報化の動向と今後の展望」という演題で基調講演があった。まず、MOOCのようなオンラインビデオ教材が、様々な大学などから提供されている背景や動向などについて触れられ、社会の動きが早くなり、学び続ける時代になって何が重要なのか、学校の先生の役割は何なのかについて話された。たくさんのコンテンツがある時代の教員の役割や、自分で何が必要でどれを学ばなければいけないかを考え、自分のペースで学び続けて行く力が非常に大事になり、能力よりもむしろ「意欲」が大事で、主体的に学ぶ力が重要になる、と説明された。

また、これからの労働人口の減少や少子高齢化という課題の中で人材育成をどうしていくべきかなど、社会の変化や日本の持つ課題を考えたとき、第四次産業革命といわれるこれからの時代を生きていく子どもたちを、私たちがどのように教育していくか、ということについて、事例を挙げながら説明され、一言でいえば学び方をどうやって育てておくかが重要だと話された。

最後に、次期学習指導要領で情報活用能力が一つの大きなキーワードになっていることを取り上げ、

情報活用能力を発揮させる場面をつくっていくことやそのための環境整備の大切さについて話された。



図1 開会行事と基調講演の様子

(2) ライトニングトーク

基調講演の後、翌日の分科会の内容について、1分半程度で連続してプレゼンテーションする恒例のライトニングトークが行われた。銅鑼が鳴るまでの短い時間の中で、工夫を凝らした発表が行われた。



図2 ライトニングトークの様子

(3) ポスターセッション・企業展示

ライトニングトークの後、ポスター発表と企業展示が交互に並ぶように工夫された会場で、25件のポスター発表と28社の企業展示が行われた。教育懇談会のために移動するまでの約2時間、活気のある発表が行われた。



図3 ポスターセッションと企業展示の様子

(4) 分科会・企業展示

2日目は、朝9時から分科会発表が行われた。日頃の教育実践や研究成果等の発表が、休憩や昼食をはさみながら3つの会場で8件ずつ行われた。

内容は、プログラミングに関する発表と問題解決型学習に関する発表がそれぞれ6件ずつあり、次期学習指導要領を見据えた実践・研究発表が多く感じられた。地元の秋田県からの発表も3件あり、それぞれの会場で、熱心に質疑応答も行われた。

また、分科会発表の時間帯に、前日に続いて企業展示も行われた。

(5) 講評・講演

大会の最後に、文部科学省の鹿野利春教科調査官から、大会の講評と講演があった。

最初に、2日間の大会の様子を振り返られながら、大会の成果を参加者自身の地元を持ち帰って多くの先生方に伝えてほしいこと、また、事務局により大会ホームページ上に掲載される情報だけでなく、是非、発表者自身のホームページなどへのリンクも張っていただいて、全国で役立てられるようにして、今回の大会が最新の情報教育のインデックスとなり、皆さんのページをつなげて情報教育の素晴らしい資料の宝庫にしてほしい、と話された。

その後、「これからの情報科教育」というタイトルで、まず、日本の児童・生徒の学力の状況について触れられ、科学的・数学的リテラシーに比べて読解力が低いこと、高校生があまり勉強をしないこと、自己肯定感や社会への参画意識が低いことについて話された。これからの日本を考えれば、授業中での成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めるとともに、労働人口が減少する将来を考えれば、生産性を高める必要があること、そのためには主体的・対話的で深い学びが大切になることなどについて話された。

その後、学習指導要領の改訂の方向性や観点別学習状況の評価の大切さについて具体的に話された。

最後に、新しい情報Ⅰ、情報Ⅱの科目についての研修の方向性や、情報入試のことについても話された。



図4 分科会発表と講評・講演の様子

4. おわりに

今回の第12回大会は、2019年8月10日(土)、11日(日)に、和歌山大学(和歌山県和歌山市)で開催される。来年も、大勢の参加者で盛り上がり、実り多い大会となることを期待したい。

参考 URL

1)「全国高等学校情報教育研究会」<http://www.zenkojoken.jp/>